

鳥取県の中央から

未来への処方箋

14



山陰八景の一つに数えられる東郷池は一周12キロ。起伏にも富み、ウォーキングには最適なコースだ。現在この東郷池周辺を中心とした鳥取県中部エリア一帯を「ウォーキングリゾート」として売り出すプロジェクトが動きだしている。

海外も絶賛

10月のある日、ウォーキングが盛んな韓国からウォーカーたちが東郷池を訪れた。湖畔の展望台からは大山を望むことができ、東郷池ではシジミ漁が行われる。ウォーカーらは「リゾートの要素は多分に含まれている」

第3部 自分たちのまちを変える ④ウォーキングリゾート

と絶賛した。

「ウォーキングリゾート」構想は、ことし13回を数えるウォーキングイベント「SUN-IN 未来ウォーク」を主催するNPO法人未来が打ち出した。理事長の岸田寛昭さんは「ウォーキングは鳥取県を元気にする力がある」ときっぱり言い切る。

自然あふれる道、健康志向の高い国民をウォーキングでつなげれば、国内だけではなく外国から

韓国ではまだ普及していないというノルディックウォークに挑戦する韓国の人たちを案内する岸田さん(右) 〓 湯梨浜町長和田



の観光客誘致、関連産業の創出できると考えた。「いいところだが、これといったものがない」と言われる中部。翌年には「日本海未来ウォーク」を開催。これをつなげよう」という発想だ。

09年には鳥取県が「ウォーキング立県」を宣言。「日本一歩かない」と言われる県民の間にウォーキングブームが訪れた。ポールを使うノルディックウォークにもいち早く取り組み、昨年は湯梨浜町で日本初のウォーカ

可能性を体感

同NPOは倉吉市内の小学校PTA会長の集まりを発端に結成された。「子どもたちの『地元には何も無い』という悲観的な考え」がいつも話題に上った。そこで考え出されたのがウォーキング。2000年に初めて大会を開催したところ、親子の参加が多く好評だった。メンバーらはウォー

市と互いのウォークイベントに参加する交流が始まり、「グローバルな視点でローカルにつながる」と、世界も視野に入れるようになった。05年には鳥取県ウォーキング協会を設立し、県内で行われるウォーキング大会のプロデュースや開催支援に着手した。こうした動きが行政を後押しし、

04年からは韓国原州(ウオジン)のカフェをオープン、「日本ノルディック・ウォーク学会」の設立総会の開催を順次実現させ、「リゾート化」に向けて順調な歩みを続ける。

岸田さんらは現在、16年にトレッキングやウォーキングを含むトレイルの世界大会を鳥取県へ誘致しようとして燃えている。

岸田さんは「ウォーキングリゾートを通して地域と子どもの未来を創造していきたい」と力を込めた。

子どもたちに夢を世界大会の誘致へ意欲